

発行人/学園町自治会会長・荻野晶子
企画編集/学園町自治会広報委員会
編集長/浜名 純
投稿・連絡先/学園町1丁目14番地31号
電話/090-6005-7887

学園町 かわら版

120
号



学園町HPは
こちらのQR
コードから

学園町憲章「運用の仕方」を見直しました

「この町を消費する住民ではなく、
未来へ受け継ぐ責任」

学園町憲章には、「運用の仕方」も同様に制定されているのをご存じでしょうか？

5月24日に開催された学園町自治会定期総会において、「学園町憲章の運用の仕方」の一部改定が承認されました。学園町憲章が制定されてから18年が経過しました。この間、自治会運営委員会では多くの土地売買や建築計画に関わってきました。その中で課題と感じたことがあります。それは、理念を掲げるだけでは学園町憲章は実現できないということです。

そこで今回、2022年に実施した住民アンケートの結果と、運営委員が実際に土地売買や建築計画に携わってきた経験を踏まえ、「学園町憲章の運用の仕方」を見直しました。

今回の主な改定 ① 土地を売却する際の地権者の役割を明確にしました

2023年に実施した「学園町憲章に関するアンケート」では、「土地を売却する際には、既存樹木を可能な限り残し、生垣などの緑を残す配慮を開発条件に付帯する」の項目について、回答者の68%（n=430）が「必要」と回答しました。この結果を踏まえ、土地を売却する際には、不動産業者や購入希望者、関係事業者に対して、「学園町憲章」の存在と理念を伝えるよう努めることを明記しました。

土地が売却されると、多くの場合、それまでの樹木や生垣が伐採され、街並みが大きく変化していきます。学園町の価値を次の世代へ引き継ぐためには、土地を手放す地権者が最初のバトンを渡す役割を担うことが大切だと考えています。

② 説明の対象に「施主」を追加しました

これまで自治会は、不動産会社や建設会社へ学園町の理念を説明してきました。しかし、実際にこの町に住まわれる施主の方とお会いできるのは、建築計画がほぼ決まってからというケースが少なくありません。その理由の一つは、運用の対象に「施主」が明記されていなかったことです。家づくりの最終的な判断をされるのは施主です。だからこそ、建築計画の早い段階で学園町の理念をご理解いただき、この町をともに育てていただくことが重要であると考えました。

③ チェックリストを導入しました

近年、土地購入前から学園町憲章についてお問い合わせをいただく機会が増えています。

一方で、学園町憲章は理念を示したものであるため、初めてご覧になる方には内容が分かりにくいという声もありました。そこで、学園町憲章をより具体的にご理解いただけるよう、チェックリスト（質問状）を作成しました。

チェックリストは自治会ホームページからダウンロードできるようにし、建築計画の初期段階からご確認いただけるようになります。自治会としても、チェックリストをもとに対話を重ねながら、学園町の理念を共有し、より良いまちづくりを進めてまいります。

なぜ運用を見直したのでしょうか

緑豊かな住環境を守り、次の世代へ引き継ぐという考え方を、住民だけでなく、不動産会社、建設会社、施主など、学園町に関わるすべての方々と共

有することを目的として、運用を見直しました。

住宅メーカーや建設会社には、それぞれの役割があります。しかし、その土地や建物は、これから何十年にもわたり住み続ける施主の大切な資産であり、同時に学園町の景観や住環境を形づくる一部でもあります。そのため、事業者だけではなく、施主の皆様にも直接この町の理念をお伝えし、ご理解いただくことが必要であると考えました。学園町を選んでいただくということは、この町の理念もあわせて選んでいただくということです。

新たにこの町に家を建て、暮らし始めるということは、学園町の理念を受け継ぎ、これからの学園町とともに担っていただく住民の一人になっていただくということでもあります。

おわりに

学園町憲章は、時代が変わっても守り続ける理念です。一方で、その理念を実現する方法は、社会や住環境の変化に合わせて見直していく必要があります。今回の運用の見直しは、その第一歩です。私たちは、この町を消費する住民ではなく、未来へ受け継ぐ責任を担う住民でありたい。この思いは、住民の皆様、新たに学園町に住まわれる皆様、そして学園町に関わるすべての方々が、この理念を共有し、それぞれの立場でできることを積み重ねていくことで、初めて実現できるものです。100年後の学園町も、「住んでよかった」と誇れる町であるために。皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

消える木陰、世界と逆行

日本の街路樹50万本減

庭木も相続で伐採

一面で取り上げたように、学園町の緑豊かな環境を維持し次世代に継続していかうと住民の皆さんが取り組みを進めています。しかし、急ピッチな「まちの開発」により、樹木がどんどん減っていく傾向にあります。これは学園町特有のことなのでしょうか。折しも5月24の日経新聞に興味ある記事が掲載されました。「日本の都市が世界の先進国の都市の取り組みに逆行して緑の面積を減らしている」というのです。ぜひ学園町の皆様に一読していただきたいと思い、記事を掲載します（日経新聞社から記事全面掲載の許可を得てあります）

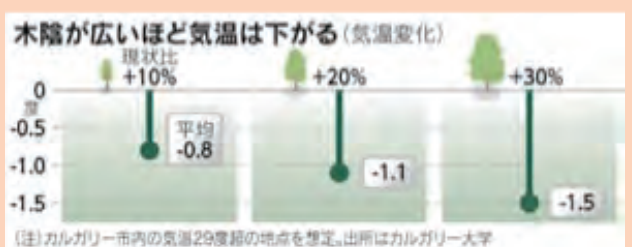
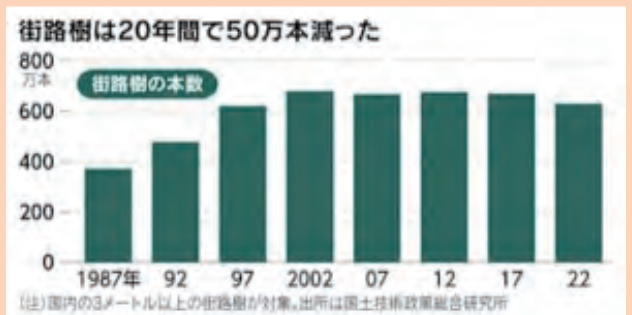
木の枝葉が地面を覆う面積の割合（樹冠被覆率）は2013年の9.2%から22年は7.3%に低下した。10年足らずで木陰が12平方キロも消えた計算だ。

世界的に見れば、東京は木陰が少ない。各都市の公表資料によると、直近の樹冠被覆率はニューヨークが23.4%（21年）、シドニー19.8%（22年）、パリ17.6%（25年）。砂漠の中にある米アリゾナ州フェニックス（24年）も11%と東京を上回る。

主要要因は庭木のある住宅や街路樹の減少だ。東京大学の分析では、23区内の木陰は13年から22年にかけて住宅地で3割、道路で2割減った。

日本は高齢化の進展で死者が増える「多死社会」に入り、不動産相続が増えた。地価や家賃の高騰もあり、相続した土地を細分化して売ったり、集合住宅を建てたりするケースが多い。どちらであっても庭木は切り倒される。

国土技術政策総合研究所によると、国内の街路樹は直近の22年調査時点で629万本と、ピークの02年（679万本）から50万本減つ



た。さいたま市は管理に年9億円かかり「予算の都合で伐採しても植え替えないことがある」。高度成長期に増えた街中の木々は寿命を迎えつつあり、都立砧公園（世田谷区）では3〜4月に倒木が相次いだ。

その中で人気を集める街路樹がハナミズキだ。この30年間で3倍に増えた。成長が遅く、枝切りの費用が抑えられる。ただし木陰は小さい。自治体の緑化活動を支援する地域緑花技術普及協会によると、落ち葉や倒木の影響も考慮し、街路樹は小さくなった。

カナダのカルガリー大学が25年に発表した衛星画像などを用いた分析では、カルガリー市内の気温29度超の地点で、木陰を現状より1割増やすと平均0.8度、3割

なら同1.5度の冷却効果があるとの結果が出た。

海外の主要都市は夏の猛暑対策として樹木を生かす街づくりにかじを切る。パリ市は30年までに市内の3割を緑地にする計画に取り組み、ニューヨーク市は樹冠被覆率を40年までに30%に引き上げる目標だ。民有地でも樹木の伐採を制限するなど、厳しい規制を課す都市が少なくない。

土木学会の24年の調査によると、ロンドン市内は幅5.5メートル以上の道路が98%を占める。一方、東京や大阪は3割以下で、街路樹を増やす余裕がない。日本では市街地の再開発で木を植えるために道路幅を広げることがまれだ。樹木は気温上昇を抑えるだけでなく、水を蓄えることで防災に役

立ち、より良い景観は都市の価値向上につながる。国も多様な機能を「グリーンインフラ」と位置づけ、官民連携で樹木を生かした街づくりを模索する。ただ、啓発活動が中心で、広く浸透しているとは言い難い。

樹木の分布や種類、年齢などの基礎データを収集している自治体もある。都市緑化に詳しい東京大学の寺田徹准教授は「自治体はデータを公開して企業などに活用を促すとともに、樹木を増やした場合の効果を市民に定量的に伝える工夫が必要だ」と話す。

気候変動は加速しており、適応（アダプテーション）の視点が重要になる。木の持つ力を十分に活用した持続可能な街づくりへの転換が求められている。（田中健斗）

街中の木陰が縮小している。東京23区では9年間で東京ドーム256個分が消えた。国内の街路樹はピークから50万本減り、枝葉が広がらない品種に植え替えが進む。気候変動で夏の暑さが厳しくなるなか、海外の大都市は気温上昇を抑える木陰の拡大に取り組む。日本も街づくりを見直す転機を迎えている。

東京23区には皇居や新宿御苑など、自然豊かな場所が数多く残る。それでも東京大学の研究によると、

焰縁激闘

(えんえんげきとう)

最高の仲間と最高の瞬間を

南中学校運動会を見学して

今年から学校運営協議会委員を教育委員会から委嘱されているため、6月6日(土)、東久留米市立南中学校の運動会にご招待を受けました。

今年のキャッチフレーズは、「焰縁激闘(えんえんげきとう)」最高の仲間と最高の瞬間を」

お天気は花曇りの空模様。空気も乾燥しており、暑すぎず絶好の運動会日和でした。近年、学校行事の簡素化が進む中で、南中学校は14種目にわたる本格的な運動会が行われました。

100メートル走、200メー



トル走、学年ごとの全員参加リレー、そして3年生による大ムカデ競走「写真」など見ごたえ十分。決して広くない南中の校庭いっぱいには設営された200メートルトラックは、中学生には狭すぎる大きさで、それだけに技術も要します。体格も大人に近づいた3年生たちが急なコーナーを駆け抜ける姿は見ている側も思わずハラハラ、ドキドキ。

2020年に東京都から各学校へ配布された光るバトンが次々と受け渡される様子は、運動会をより印象深いものにしていました。

中でも、学年ごとの組対抗リレーは見応え満点。全員が参加し、仲間へバトンをつないでいく姿は、まさにチームワークの結晶。助走しながら正確にバトンを渡す技術も、学年が上がるにつれ洗練されていくことが分かりました。

特に3年生の組対抗リレーは圧巻でした。各組30人を超える生徒たちがバトンを受け取り、走りぬいていきます。その一人ひとりの表情からは、3年間の出来事が走馬灯のようによみがえっているのではな

いか—そんなことを想像させる走りでした。

仲間と過ごした日々、喜びや悔しさ、励まし合った時間。なんとしても勝ちたいと願いながら、思い出の一つひとつが凝縮されたような走りは、観る者の心にも深く届きます。生徒たちの懸命な姿に、この先の人生が幸多きものであつてほしいと願わずにはいられませんでした。

エンジン全開!! 魂を燃やせ

五小の子らが元気に運動会



「最高の仲間と最高の瞬間を」というキャッチフレーズそのもののような彼らの姿に、胸の奥からこみ上げるものを感じた、幸せなひとときでした。学校運営協議委員をお引き受けて良かったと思つた一日でした。それぞれの未来へ力強く歩んでいくことを、地域の一員として心から応援したいと思います。(荻野晶子)

東久留米市立第五小学校で5月23日(土)、運動会が開催されました。前日までの雨で校庭の状況が心配でしたが、6年生の児童と教職員で水たまりの水を抜き、土をまく作業を行い、予定通り実施することができました。

今年の運動会のスローガンは「エンジン全開!! 魂を燃やせ 仲間

間とつなぐ 努力のバトン」。選手宣誓と応援合戦のあと、学年ごとに全員リレーと、自分たちの思いを集団の演舞で伝える「表現」を披露しました。まず4年生が「エイサー」笑顔で届ける力強さ」と題して表現しました。次いで2年生が「Happiness!!!」みんなへ届けよう、3年生が「青春フラッグ」僕らの全力宣言」、1年生が「げんきいっぱい! スター☆ダンス」、5年生が「伝統をつなぐ五小ソラン」、そして6年生が「有終の美 The Final」を披露しました。

最後に五小伝統の「全校大玉送り」写真を行いました。1年生から6年生まで校庭の外周に並んで輪を作り、手を頭上にかざして大玉を送っていました。

友達と協力し合い、励まし合いながら一生懸命練習に励んできました。子どもたちの全力の頑張りと保護者・地域の皆様からの全力のご声援のおかげで盛大な運動会になりました。運動会の成功の裏には、ボランティアの皆さんの協力がありました」と菱田行記校長は話しています。

ハマナホームで恒例の流しソウメン



連日猛暑が続く7月25日(土)、学園町1丁目のハマナホームで、今年も夏の風物詩「流しソウメンの会」が開かれました。

大人19人、子ども17人。子どもは2歳から高校生まで、大人はシニアの会の人も参加してくれました。長い竹を縦に二つに割った「水路」の両側に陣取つて、流れてくるソウメン、ミカン、チーズなどを救い上げて楽しみました。2階では手作りのかき氷もふるまわれ、10歳の「ゆきちゃん」、13歳の「くうちん」のハッピーバースデーもやりました。

ウェルカム学園町

新しい組の組長になりました

横山光・亜美 夫妻

市立南中学校の正門近くに8戸の分譲住宅が建ちました。その一角に引っ越してきたのが、横山光さんと妻の亜美さんです。お二人とも20代。2年前に結婚したばかりの若い新婚夫妻です。学園町には昨年の5月に引っ越してきました。横山さんにお話を伺いました。(文中敬称略)

——学園町に来る前はどこにお住まいでしたか。

光 生まれ育ったのは、石川県です。専門学校を卒業して上京し、メーカーに技術者として就職しました。一時期、神奈川県に住んだこともありましたが、所沢へ転勤したため、ここに来る前の6年間は秋津に住んでいました。

——奥さんの亜美さんとはどこで知り合ったのでしょうか。

光 妻は富山県出身で、同じ学校の後輩です。上京して都内の会社に務めています。結婚して、僕の住んでいた秋津に彼女が引っ越してきた、新婚生活をスタートしました。現在は猫2匹を迎



えて、2人と2匹で楽しく生活しています。

——なぜ、学園町に引っ越ししようと思ったのでしょうか。

光 結婚を機に広い新しい家に引っ越したいという思いがあり、マンションや戸建ての分譲住宅を探していたところ、ハウスメーカーから学園町に戸建て住宅がきますよという話を聞きました。実際に見に来たのですが、ひばりが丘団地の西友に通じる並木がきれいで、閑静な住宅街という感じが気に入りました。秋津で住んでいた所は道沿いで静かではなかったですね。目の前に郵便局と中学校があり環境にも恵まれています。

それでいて、最寄り駅のひばりヶ丘駅は、西友やパルコがありとても充実していました。西武池袋線の急行も停まります。これから長く住んでいくことを考えた時に、ここなら落ち着いた暮らしができるのではないかと考えたのです。

——引っ越す前に学園

町についてどんなイメージをもっていましたか。何か知っていることはありましたか。また、引っ越してからの印象はどうでしたか。

光 ハウスメーカーからもらったパンフレットには緑豊かな環境があると書かれてあり、ネットなどで調べると自由学園という学校があつて地域との交流も行われているんだな、といったことが分かりました。最初は、マンションもいかなと思っていました。こちらのほうが落ち着いていて気に入っています。

ジョギングが趣味で、ひばりが丘団地周辺をよく走っています。妻とは自由学園のしのめカフェをよく利用しています。素敵なカフェがあつたらぜひ紹介してほしいです。

——学園町に対して要望などがあつたらお聞かせください。

光 私たちが住んでいる分譲地が自治会の新しい「組」になりました。30組です。私が組長を務めております。最近、この分譲地に新たに入居する方もおり、「自治会に入りませんか？」と勧誘もしています。5月の自治会総会には妻が出席しましたが、活発な議論がなされ、いい雰囲気だったと感想を述べていました。

一軒家の広い土地がいくつかに分譲されていくのは時代の流れかもしれません。人が増えるのは悪いことではないと思います。町に賑わいと活気があるのはいいこと

です。緑の環境といったハードだけでなく、ソフトの面でも新旧の住民がうまく溶け合ったコミュニティになればいいな、と思います。最近、全国的にトクリュウ(匿名・流動型犯罪グループ)による

凶悪な犯罪が相次いでいます。子供が安心して暮らせる町でありたいですね。ご近所とのつきあいやお互い自然に声かけができるような環境づくりに役に立てればと思っています。

対象：初等部受験をご検討のご家庭
11月に迎える入試について丁寧にご説明いたします。
少しでもご興味のある方は是非お越しください。

■自由学園最高学部
第9回リベラルアーツ学会
日時：9月5日(土) 14:00～16:40
会場：最高学部棟3階中教室
お申し込み、詳細は学園HPからお願い致します。
※お問合せ先：自由学園学園長室
TEL：042-428-4232
e-mail：headoffice-info@jiyu.ac.jp
URL：https://www.jiyu.ac.jp



《自由学園》

■自由学園幼児生活団幼稚園
夏まつり
開催日：8月29日(土)
時間：10:00～12:00 ※入退場自由
対象：0.1.2才、幼稚園の入園をお考えのご家庭
夏の終わりは、ようちえんであつぱりあそぼう！ワークショップに、えんにち、遊びのコーナー…暑い夏にピッタリ、自由学園の自家製シロップをかけて食べるかき氷も販売予定です！お申込みはこちら
https://forms.gle/JHyBfb-mpXmPadX1PA

■自由学園初等部
入試説明会
開催日：9月12日(土)
時間：9:30～11:30

おしらせ

《南部地域センター》

※各イベント問い合わせは南部地域センター(指定管理者(株)セイウン) ☎042-451-2021
Mail higashikurume_nanbu@s-seiun.co.jp

★夏休み特別企画

「花屋さんが教える植物の世界」

夏休み、キミも植物博士になろう！只今受付中、ドンドン申し込んでね！

・8月15日(土)・22日(土)
・会場：2階講習室 14:00～16:00

・定員：30名・参加費：無料
・対象：小学生
・持ち物：筆記用具

★「南部野菜市」

無農薬の新鮮な野菜・果物を地域の皆様に提供販売します。お寄りください。

・8月11日(火)・18日(火)・25日(火)・9月1日(火)・8日(火)・15日(火)・22日(火)・29日(火)・10月6日(火)
・販売時間：10:00～12:30
・会場：ピロティ

・協力：グルッパ

★「シニアヨーガ」
ヨーガを始めるのに年齢や性別は関係ありません。今の自分を受け入れ、自分のヨーガをみつけましょう。

・8月14日(金)・28日(金)
・9月11日(金)・25日(金)
・10月9日(金)

1部 10:00～11:00

2部 11:30～12:30

・会場：2階和室
・定員：各回6名
・参加費：700円(当日払い)
・対象：65歳以上

・持ち物：ヨガマット・水分補給
動きやすい服装・厚手のバス

タオル・汗拭きタオル
・講師：ヨガインストラクター AZUSA

★お宝いっぱい！「まあぶるミニバザー」
地域の皆様よりご提供いただいた洋服・食器類・雑貨・書籍等をお手頃価格で販売します。ぜひお越しください。

・8月25日(火)・9月15日(火)13:30～15:30
・問合せ：(社福)すぎのこまあぶる ☎042-473-5896

★「なんぶおしゃべりサロン」